

●基本計画の策定方針（要約）

- ① 地域と世界に開かれた研究拠点となり、グローバル人材の育成の場となること
- ② デジタル技術と医療・健康研究などの異分野融合による社会実装の場となること
- ③ 地球環境へ配慮し、地域活性化、安全で快適な居住空間の実現を目指すこと
- ④ 持続的な利用と運営を実現するキャンパス計画であること

●キャンパス整備の基本方針

「宝町・鶴間新キャンパス（仮称）から地域と世界へ」

を目指した世界的研究拠点となるキャンパスの構築

●コンセプト

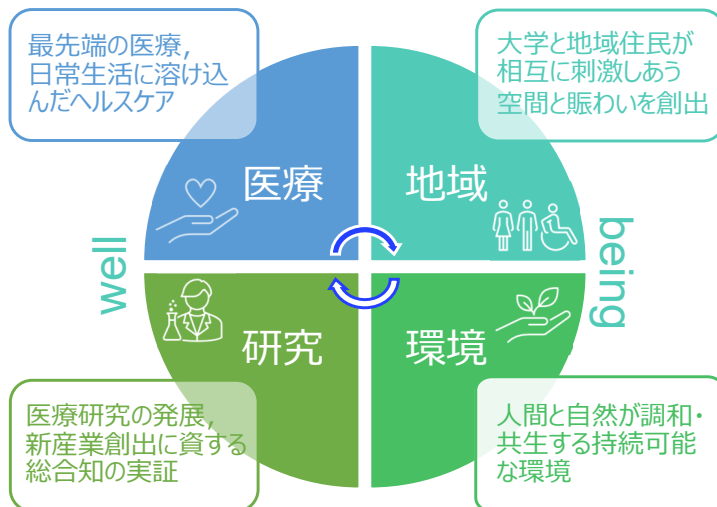
心と身体と環境の健康を実現するウェルビーイングキャンパス



- ① 附属病院を中心とした先進医療と医学，保健学，薬学をコアとした「総合知」を実践する環境
- ② 学生，教職員，地域住民が共に快適に暮らす居住環境
- ③ 人と自然が調和する環境

医療・研究・地域・環境のウェルビーイングのために

- ・ヘルスケアを中心とした健康に寄与する新たな機能を備えたキャンパス
- ・「超高齢化社会」において、「自分らしく生きる」という社会の理想の実現



●新キャンパスの概要（教育研究・ヘルスケアの枠組み）

- ・健康の享受，災害への備えが図られた安心・安全の日常における自然な幸福感
- ・未来健康都市モデル：未来型の医療居住環境の創造と発信



豊かで持続可能な未来を描く ～こどもの健やかな成長と健康長寿の社会へ～

（注）本計画は、令和6年8月時点の基本計画であり、今後変更となる可能性がある。

～心と身体と環境の健康を実現するウェルビーイングキャンパス～

●施設の構成と機能

- 1) 骨格軸動線となる各ゲートの機能：中央ゲート（学術・交流）、北ゲート（健やかな居住環境）、南ゲート（保健学類正門）
- 2) キャンパス内の移動：安全に配慮（歩行動線と車両動線の交錯を低減）
- 3) キャンパスのシンボル：中央ゲート近くに中央広場を計画
- 4) 敷地北西側（建築制限；トンネル上部）の有効利用：コミュニティ広場に活用
- 5) 駐車場（居住者）：敷地北・東側に計画（崖地からの建設距離制限）
- 6) モビリティハブ：次世代交通システムの拠点
- 7) 新しいモビリティ：多様なモビリティの走行を考慮した動線、道路計画

① 学び・究め・集うエリア

学術・産学・地域連携施設



未来健康増進センター棟（仮称）
産学連携施設棟（仮称）

学生の実習ができ、健康相談や交流イベント等を通じて、地域の健康増進に寄与する施設

産学連携研究の発展に寄与する施設

② 暮らしと健康エリア

大学用居住施設



教職員用居住施設
学生・留学生用居住施設

看護師，初期研修医を含めた教職員の居住施設（135戸程度）

日本人学生，留学生の居住施設（100戸程度）

附属病院・宝町地区へ（徒歩圏内）
角間キャンパスへ（巡回モビリティ）

③ 民間事業者の自主的運営によるエリア



居住施設・子育て支援施設等

多様な職種，幅広い世代を対象とした居住施設，学童保育施設等

④ 憩い・滞在するエリア

交流滞在施設



飲食施設
研究者等の滞在型宿泊施設
長期療養者家族等の滞在施設

学外者も利用する，健康に配慮した食事を提供する施設

教育・研究・医療活動関係者や，医療機関に長期入院する遠方の小児患者家族のための滞在施設

⑤ 体を動かすエリア



既存の鶴間体育館の
リニューアル

スポーツを通じた利用者同士の交流，健康増進，地域の活性化促進

⑥ 自然との共生

屋外環境



中央広場 コミュニティ広場
散策路 ふれあい農園
モビリティハブ

地域住民を含む様々な人々が集う憩いの場，マルシェやヨガ，レクリエーション，防災機能，様々なモビリティの交通拠点

石引・小立野地区へ
旭町地区へ（鶴間坂・徒歩圏内）



(注) 本計画は，令和6年8月時点の基本計画であり，今後変更となる可能性がある。